

2020年度第1回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 福寿草特別

福寿草（ふくじゅそう）は、キンポウゲ科の多年草。旧暦の正月に咲き出すことから別名「元日草」と呼ばれる。日本、東シベリアなどに自生し、多くの品種がある。黄色で直径約4cmの花が頂生する。花言葉は「幸福」「幸運を招く」。

○ 門松ステークス

門松（かどまつ）は、正月に家の門口に飾る松の飾り。本来は年神（としがみ）の来臨する時の依り代の意味を持つ。一般的には竹・松などを用いるが、地方によってはナラ・サカキ・シキミなどの常緑樹を用いる。

○ スポーツニッポン賞京都金杯（GⅢ）

本競走は、昭和38年に創設された『迎春賞』を前身とする重賞競走。41年に『スポーツニッポン賞金杯』と改称するとともに、別定重量戦となった。その後、56年にハンデキャップ戦となり、平成8年から東西で行われる金杯を区別するため、現在の競走名に改称された。また、12年には距離が2000mから1600mに短縮された。

スポーツニッポン新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 許波多特別

許波多（こはた）は、京都府宇治市の地名「木幡」の元となったもの。許波多神社が有名。皇位継承をめぐる壬申の乱の時に大海人皇子（後の天武天皇）が戦勝を祈願したと言われている。また、競馬発祥の神社としても知られ、古代から祭礼行事として競馬（くらべうま）が行われていた。

○ 新春ステークス

新春（しんしゅん）は、新年、正月の別称。昭和29年に国営競馬が日本中央競馬会へと移管されて以来、現存する最も古い競走名のひとつ。

○ 万葉ステークス

万葉（まんよう）は、現存する最古の和歌集である『万葉集』の略称。大伴家持が編纂に携わったとされ、仁徳天皇期から淳仁天皇期までの短歌・長歌・旋頭歌など約 4,500 首が収録されている。

<第3日>

○ 五条坂特別

五条坂（ごじょうざか）は、清水寺への参道のひとつ。途中で清水新道（茶わん坂）と呼ばれる道と分岐する。かつては清水焼の窯元が数多くあり、現在でも道沿いには陶器店が軒を連ねている。

○ 逢坂山特別

逢坂山（おうさかやま）は、滋賀県大津市西部と京都府の境、比良山中にある山。別名「関山」とも呼ばれる。鈴鹿関、不破関と並んで三関に数えられる逢坂関が置かれ、平安京の防衛に重要な役割を果たした。この関から東の地域を東国、関東と呼んだ。

○ 淀短距離ステークス（L）

淀（よど）は、京都市伏見区の地名。名は、川の水が淀むことに由来する。宇治川・桂川・木津川の合流点付近を占め、旧河床や自然堤防を利用した野菜栽培が盛んであったが、近年は急速な宅地化が進んでいる。また、京阪電鉄京阪本線の駅名にもなっており、京都競馬場の最寄り駅としても知られている。

<第4日>

○ 天ヶ瀬特別

天ヶ瀬（あまがせ）は、京都府宇治市の地域。天ヶ瀬ダムは、淀川支流宇治川の峡谷部に位置するアーチ式ダム。洪水調節・発電・上水道供給を担う特定多目的ダムで、堤高 73m、幅 254m。京滋バイパスを利用することで大津市・比叡山・石山寺にも近く、観光客が多く訪れる。

○ 雅ステークス

雅（みやび）は、宮廷風であること、上品で優美なこと。江戸時代の国学者本居宣長は、平安時代の和歌、物語を含む古代文化の中心にあるものを「みやび」と呼んだ。

○ 日刊スポーツ賞シンザン記念（GⅢ）

本競走は、シンザン号の栄誉を称え昭和 42 年に創設された重賞競走。同馬は、39 年にセントライト号以来 23 年ぶり、日本競馬史上 2 頭目の三冠制覇という偉業を達成し、翌年には天皇賞（秋）と有馬記念も制して五冠馬の称号を得た。引退後も種牡馬として活躍し、59 年に顕彰馬に選出された。

日刊スポーツ新聞社は、北海道・東京・愛知・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 5 日>

○ 乙訓特別

乙訓（おとくに）は、京都府南部の地名。かつては現在の長岡京市、向日市などを含む桂川の西岸地域を指した。『日本書紀』には、弟国（おとくに）とも記載されている。清らかな竹林が広がっており「かぐや姫」伝説発祥の地として伝わっている。

○ 寿ステーキス

寿（ことぶき）は、祝うべき事柄。また、祝いの言葉や儀式のこと。

○ すばるステーキス（L）

すばるは、牡牛座にある散開星団、プレアデス星団の和名。数多くの星によって構成されているが、肉眼で確認できる星は 6 個程度であることから、「六連星（むつらぼし）」とも呼ばれる。

<第 6 日>

○ 木津川特別

木津川（きづがわ）は、京都府南部を流れ、八幡市で淀川に注ぐ一級河川。三重県の青山高原に源を発し、柘植川・服部川・名張川の水を集める。

○ 紅梅ステーキス（L）

紅梅（こうばい）は、紅色の花が咲く梅。『源氏物語』第四十三帖の巻名でもある。梅は、中国原産のバラ科の落葉高木。300 種類以上の品種があり、大別して野梅系・緋梅系・豊後系がある。花言葉は「忠実」「優美」。

○ 羅生門ステーキス

羅生門（らしょうもん）は、平安京の条坊都市の中央を南北に貫いた朱雀大路の南端に構えられた大門、「羅城門（らじょうもん）」の後世の当て字。芥川龍之介の短編小説の題としても有名。

<第7日>

○ 白梅賞

白梅（しらうめ）は、白色の花をつける梅。梅は、中国原産のバラ科の落葉高木。花は早春、葉に先立って開く。果実は球形の核果で酸味が強く、梅干しや梅酒に加工される。花言葉は「気品」「忍耐」。

○ 北大路特別

北大路（きたおおじ）は、京都市街地北部を東西に走る幹線道路。東は白川通りから西は金閣寺前に至り、沿道には大徳寺や船岡山公園などがある。烏丸北大路には、バスターミナルや地下鉄の駅があり、京都市北部の交通の拠点となっている。

○ 日経新春杯（GⅡ）

本競走は、昭和29年に『日本経済新春杯』として創設された重賞競走。54年に現在の競走名に改称された。56年から平成5年までは別定重量戦で実施されていたが、6年にハンデキャップ戦に変更され、現在に至る。

日本経済新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ 睦月賞

睦月（むつき）は、陰暦一月の異称。睦び月（むつびつき）とも言う。

○ 蹴上特別

蹴上（けあげ）は、京都市東山の一地区。傾斜に線路を引き、動力を用いて船を引っ張り上げたインクライン軌道跡があることで有名。

○ 石清水ステークス

石清水（いわしみず）は、石清水八幡宮の略称。石清水八幡宮は、京都府八幡市にある旧官幣大社。都からみて裏鬼門に位置しており、鬼門に位置する比叡山延暦寺とともに都の守護、国家鎮護の社として崇敬を受けてきた。

<第9日>

○ 祇園特別

祇園（ぎおん）は、京都市東山区八坂神社（祇園社）およびその周辺の地名。門前町として発展し、花街としても知られる。現在でも、町家や石畳の風情が残り、京都観光の中心地のひとつとして親しまれている。

○ 若駒ステークス（L）

若駒（わかごま）は、若い馬のこと。本競走は、春のクラシック戦線を占う一戦として知られている。

○ 東海テレビ杯東海ステークス（GⅡ）

本競走は、昭和59年に創設された『ウインターステークス』を前身とする重賞競走。当初は12月にダート2200mで実施されるGⅢ競走であった。平成2年からは2300mに延伸、9年にGⅡへ格上げ、12年には実施時期が5月へ移された。その後、25年より実施時期を1月に移すとともに、1800mで実施されるようになった。なお、第1着馬には同年のフェブラリーステークスへの優先出走権が与えられる。

東海テレビは、愛知県名古屋市に本社を置く放送局。昭和33年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。